荒川流域の古墳　～昔の暮らしを偲ばせる古墳の宝庫～

荒川流域は古代から稲作をはじめとする生業に適し、権力が栄え、多くの古墳が残っています。

荒川流域の古墳

鹿島古墳群（深谷市）

埼玉古墳群（行田市）

荒川と古墳群

3世紀後半から7世紀にかけて、埼玉県内に大小約 5,000基の古墳が築造されています。荒川流域の自然堤防および台地、丘陵地上は古墳の密集地域であり、東国の古代史を解明する上でも重要な古墳が数多く存在します。都幾川及び市野川流域の比企・岩殿丘陵一帯には、我が国の考古学研究の端緒となった吉見百穴を始め、多くの横穴墓が現存しています。荒川流域は古代から稲作をはじめとする生業に適した地域であり、強大な権力の生成を実現させるポテンシャルを有する地域でした。

▶ 直径105mの日本最大の円墳

丸墓山古墳は、直径105mあり円墳では日本最大です。墳丘は埼玉古墳群の中で一番高く、約19mあります。墳丘に使われた土の量は二子山古墳より多かったという試算があります。出土した埴輪から、6世紀前半ころに築かれたと推定されています。埋葬施設の内容は、現在のところ確認されていません。

南側から古墳にいたる道は、1590（天正18）年に石田光成が忍城を水攻めにした時に築いた堤防の跡といわれている「石田堤」です。水攻めの際には、古墳の長城に陣が張られました。

丸墓山古墳（行田市）

▶ 埼玉古墳群の中で最初に造られた古墳

稲荷山古墳は、全長120mの前方後円墳です。周囲には長方形の堀が中堤をはさんで二重に巡り、墳丘くびれ部と中堤には造出しと呼ばれる張出しがあります。古墳が造られた時期は、5世紀後半ころと考えられ、埼玉古墳群の中で最初に造られた古墳です。

前方部は、1937（昭和12）年に土取り工事で失われましたが、2004（平成16）年に復原されました。

1968（昭和43）年の発掘調査では、後円部が二つの埋葬施設が発見されました。そのうち礫槨はよく残っており、多くの副葬品が出土しました。その一つである鉄剣からは、1978（昭和53）年に115文字の銘文が見出され、他の副葬品とともに1981（昭和56）年に国宝に指定されています。

稲荷山古墳（行田市）

▶ 当時の関東地方における地域交流を考える上で重要な古墳

将軍山古墳は、全長90mの前方後円墳です。1894（明治27）年に横穴式石室が発掘され、多数の副葬品が出土しました。この石室には、千葉県富津市付近で産出する「房州石」が用いられており、古墳時代の関東地方における地域交流を考える上で重要な古墳です。

周囲には長方形の堀が中堤をはさんで二重に巡り、後円部と中堤には造出しと呼ばれる張り出しがあります。稲荷山古墳・二子山古墳と同じ形態です。古墳の造られた時期は、出土した遺物から6世紀後半と推定されています。

将軍山古墳（行田市）

アクセス

埼玉古墳群

交通：ＪＲ高崎線「吹上駅」下車、朝日バス（佐間経由）「産業道路」下車、徒歩約15分

秩父鉄道「行田市駅」下車、市内循環バス（観光拠点循環コース）　「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分

ＪＲ高崎線「北鴻巣駅」下車、徒歩約1時間

住所：行田市大字埼玉4834

（埼玉県さきたま史跡の博物館）

埼玉古墳群

出典	埼玉古墳群案内板（埼玉県教育委員会）/埼玉県立さきたま史跡の博物館